

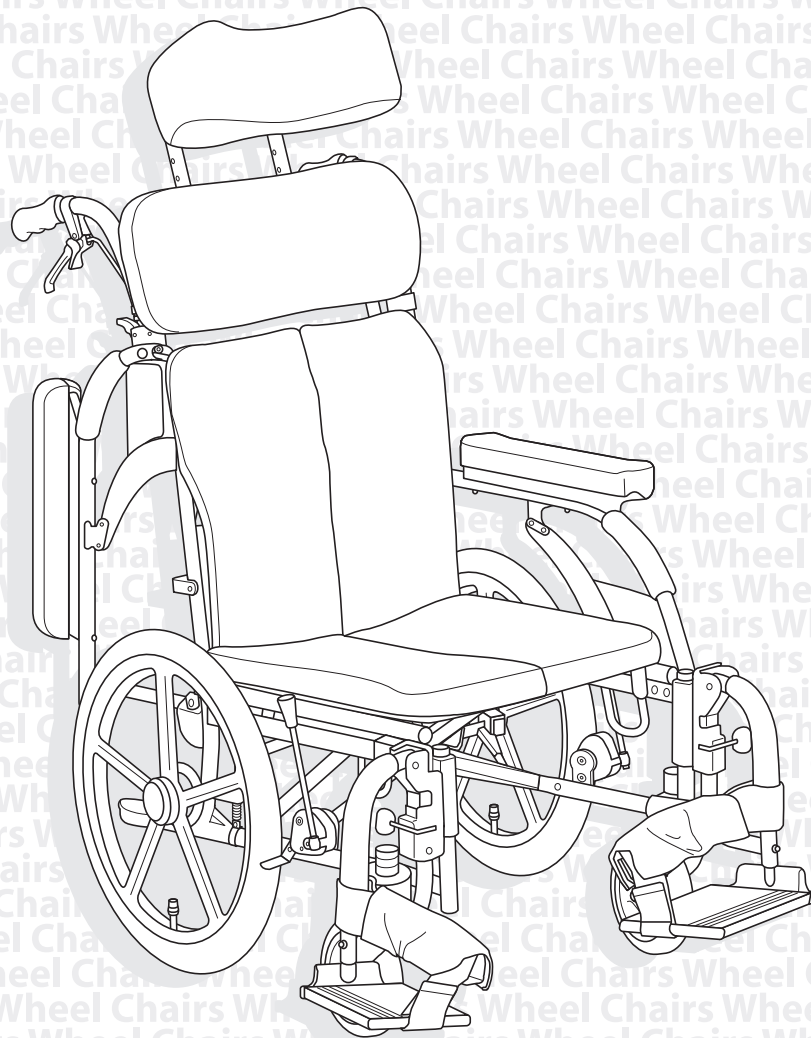
マツナガの車いす

REM-01H

取扱説明書

保存用

保証書付



MATSUNAGA

このたびは、(株)松永製作所の製品をお買い上げいただき、ありがとうございます。

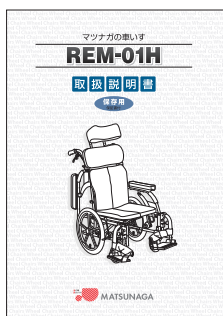
この取扱説明書には、お客様が安全に正しくご使用していただくために必要な注意事項や使用方法が説明してあります。ご使用になる前には必ずお読みください。また、保証書が付いていますので紛失しないように大切に保管し、必要に応じてお読みください。

車いすがお身体に合わない場合には、ご使用にならないでください。(健康をそこなう恐れがあります。)
そのような場合には、購入されたお店、かかりつけの病院にご相談ください。

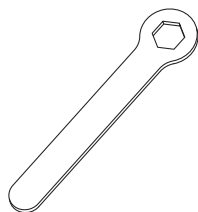
- お買い上げの製品は改良などにより、この「取扱説明書」の内容と一部異なる場合があります。
- ご不明な点がございましたら、お買い上げの販売店または、直接弊社までお問い合わせください。

以下の物が同梱されているか、確認してください。

付属品



取扱説明書



スパナ

- 万一、不足品がありましたら、すぐにお買い上げの販売店、または松永製作所にご連絡ください。

ご使用前に

出荷時には検査をしておりますが、ご使用前に次のご確認をお願いいたします。



- 箱が破損したり、濡れたりしていないか。
- 各部の破損・キズ、フレームのゆがみ、ボルト・ナットや部品の脱落はないか。
- 付属品はすべて揃っているか。
- タイヤの空気圧は適正か。(タイヤを指で押さえ確認してください。)(P.8参照)

もし異常があればご使用にならず、すぐにお買い求めの販売店または、弊社までご連絡ください。

目次

安全にお使いになるためのご注意	2
機種別寸法一覧	4
各部の名称	4
機能説明	5
安全にお使いになるための使用方法	6
車いすの広げ方	6
車いすの折りたたみ方	7
ご使用の前に	8
ブレーキの使用方法	8
フットサポートの調整	10
フット・レッグサポートスイングアウト	10
アームサポート 跳ね上げタイプ	11
アームサポートの着脱	12
枕の調整	12
乗り方・降り方	13
介助の仕方	14
外出時の注意	16
その他の注意事項	17
もしこんなトラブルが発生したときは	18
車いすのお手入れの方法	18
保管場所	19
保証	19
アフターサービス	19
車いす 点検シート	20

安全にお使いになるためのご注意

-  **警告** この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定されることを示します。
-  **注意** この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があることおよび物的損害の発生する可能性が想定されることを示しています。

お守りいただく内容の説明



この表示は、してはいけない「**禁止**」内容です。



この表示は、必ずしていただく「**強制**」内容です。

警告

(禁止)



しては
いけない

- タイヤの空気圧が少ない状態で、使用しないでください。(P.8 で使用の前に参照) ブレーキのロックが出来なくなり、車いすが動いたりして、事故の原因となります。また、タイヤのパンクの原因となります。
- 車いすのシートの上で立ち上がらないでください。転倒事故の原因となります。

(強制)



必ずして
いただく

- バックサポート折りたたみのロックピンが、「カチッ」と音がして完全に出ていることを確認してください。転倒事故の原因となります。
- 車いすに乗る・降りる前や、ベッドへの移乗時には、必ずブレーキをロックしてください。車いすが動き、転倒事故の原因となります。
- フットサポートの上に乗って乗り込んだり、降りるとき上に立ち上がらないでください。車いすがバランスを崩し、転倒事故の原因となります。
- 側溝の格子蓋や踏み切りなどでご使用される場合は、必ず介助者の方に支えていただいで行ってください。車輪が溝にはまって転倒事故の原因となります。

注意

(禁止)



しては
いけない

- バックサポートに重いものを引っ掛けないでください。車いすが不安定になり、転倒事故の原因となります。
- 車いすを払げる時に、座パイプの横や下に、手や指を入れないでください。パイプに手や指を挟んでケガをします。
- 急ブレーキをかけないでください。車いすに乗っている方が前方へ転倒する恐れがあります。
- アームサポートを持って、車いすを持ち上げないでください。ケガ、転倒、転落事故原因となります。
- アームサポートを跳ね上げた状態で、アームサポートに力を加えないでください。破損の原因となります。

(禁止)



しては
いけない

- タイヤを持って車いすを操作しないでください。**
ブレーキに手があたり、ケガをする原因となります。
- 走行中、身体を乗り出さないでください。**
バランスが不安定になり、転倒、転落事故の原因となります。
- 車輪が回転しているときは、スポークに手や指を差し込まないでください。**
手や指をはさんでケガをする原因となります。
- バックサポートパイプのみで、キャスト(前輪)を上げないでください。**
バックサポートパイプが曲がったり、折れたりして、転倒して事故の原因となります。
- スピードをつけて、乗りこえようとししないでください。**
使用者が車いすから転落して事故の原因となります。
- バックサポートが折りたたみの場合は、使用者が車いすに乗っている状態でグリップを持って吊り上げないでください。**
パイプが外れたりして、転倒・転落事故の原因となります。
- 坂道を下るとき介助者の方は、車いすを後ろ向きでゆっくり確認しながら走行してください。**
前向きで下ると、乗っている人がずり落ちたり、前のめりとなり、転倒事故の原因となります。
- 車いすを横向きに倒して上に物を置かないでください。**
重みで車輪フレームが、曲がったりして故障の原因になります。
- 車いすで荷物を運んだりしないでください。**
- 火気の近くに置かないでください。**
タイヤがパンクしたり、シートが燃え火災の原因となります。

(強制)



必ずして
いただく

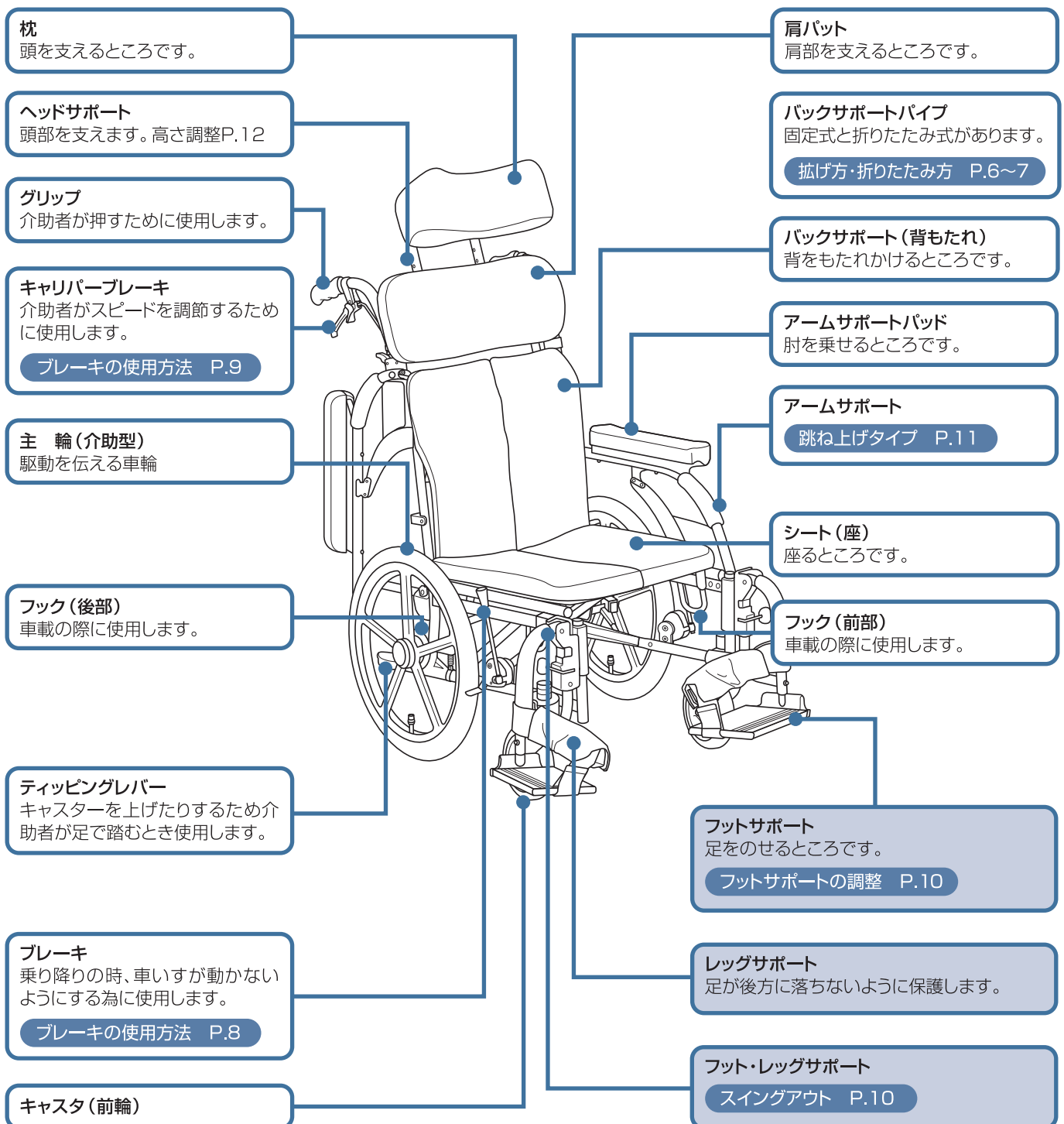
- 車いすを上げた時、座パイプが受けに収まっているか、確認して座ってください。**
パイプが曲がったりして、転落事故及び故障の原因になります。
- 必ずヘッドサポートを取り付けてご使用ください。**
パイプ差込口で手や頭にケガをする原因となります。又、フレーム強度が低下し、破損の原因となります。
- ヘッドサポートがロックされていることを確認してください。**
外れて、転倒、転落事故原因となります。
- 介助者の方はキャリパーブレーキレバーを両側同時にかけてください。**
バランスを崩し、転倒事故の原因となります。
- フットサポートの高さは地面より5cm以上でご使用ください。**
路面の凹凸や障害物にフットサポートが引っかかり急に車いすが止まり、転倒の事故の原因になります。
- フットサポートのスイングアウトをもどしたときは、ロックが確実にされているか確認してください。**
足を乗せたとき、外れて足をケガする原因となります。
- フットサポートのスイングアウトや着脱・取り付け操作時に、手をはさまないように注意してください。**
- アームサポート跳ね上げをもどしたときは、ロックレバーのピンが完全にロックされていることを確認してください。**
転落事故の原因となります。
- 車いすの乗り降りは、路面の平坦な場所で行ってください。**
車いすが動いたりして、バランスを崩し、転倒・転落事故の原因となります。
- 側溝の格子蓋、踏み切りのレール溝にキャストが落ち込まないように注意してください。**
車いすが急に止まり使用者の体が前方に傾き、転落転倒事故の原因となります。
- 移動中、つま先が障害物に当たらないように、確認して走行してください。**
- フットサポートに足が乗っているか確認して走行してください。**
- 必ず固定されている場所を持ってください。操作レバー、ブレーキなど持たないでください。**
- 車いすを持ち上げたときに座面の水平を保ち、乗っている人の転落には十分注意してください。**

機種別寸法一覧

機種	キャスト (インチ)	大車輪 (インチ)	前座高 (m/m)	後座高 (m/m)	全長 (m/m)	全高 (m/m)	全幅 (m/m)	折畳み幅 (m/m)	重量 (kg)
REM-01H	6(スーパー)	16	390(※1)	340(※1)	1055	1085(※2)	530	290	18.3

※1……クッション上面の寸法です。
 ※2……ヘッドサポートを一番高くした時の寸法です。

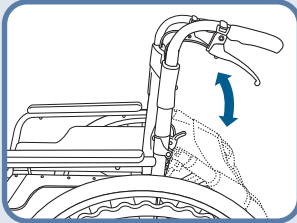
各部の名称



機種	タイプ	バックサポート	アームサポート	フット・レッグサポート	ブレーキ	
			機能	機能	種類	機能
REM-01H	介助	折りたたみ	跳ね上げ+着脱	スイングアウト	ミニ	ドラム

機能説明

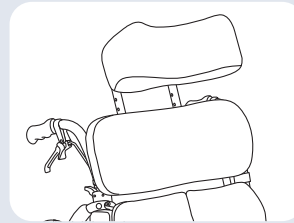
〈バックサポート〉



折りたたみ

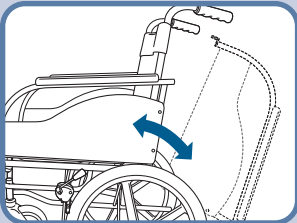
背もたれが折りたたみで、自動車等への積み込みが容易に行えます。

〈ヘッドサポート〉



頭部を支えます。より安定させるように枕・肩パットが付いています。

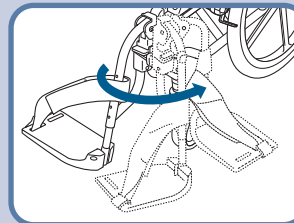
〈アームサポート〉



跳ね上げ

簡単なワンタッチ操作で肘掛けの跳ね上げができます。ベッド等の移乗時に大変便利です。介助軽減にも役立ちます。

〈フット・レッグサポート〉

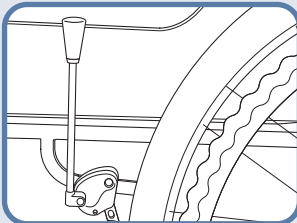


スイングアウト

フット・レッグサポート部が開閉でき着脱可能です。ベッド、便器等への接近が容易です。片手片足操作にも適しています。

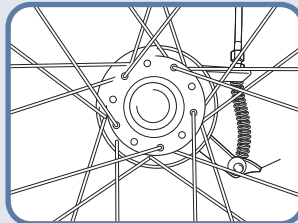
〈ブレーキ〉

ミニ



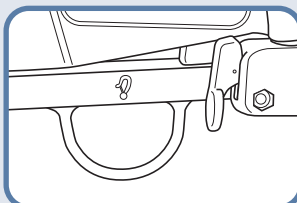
乗り降りの際に車いすが動かないようにするために使用します。

ドラム

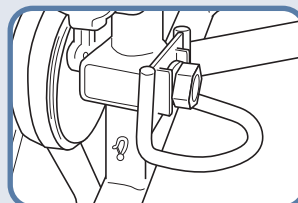


介助用のブレーキです。走行中や坂道で速度を調整する際に使用します。

〈フック〉



〈前部〉



〈後部〉

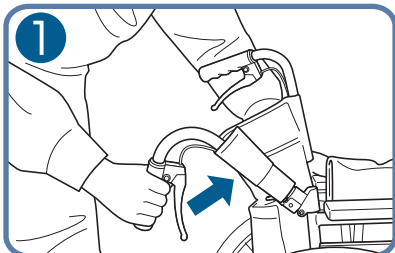
車載の場合に便利な固定フックポイントを設けてあります。

安全にお使いになるための使用方法

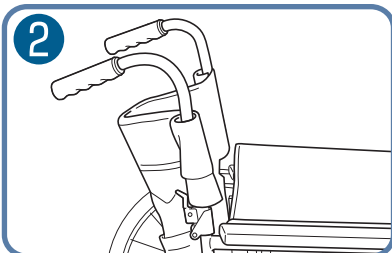
車いすの拡げ方

●バックサポートの折りたたみを起こす時は、車いすを折りたたんだ状態で行ってください。
(拡げた状態で行うと、背シートにバックサポートパイプが引っ張られ、ロック出来なくなります。)

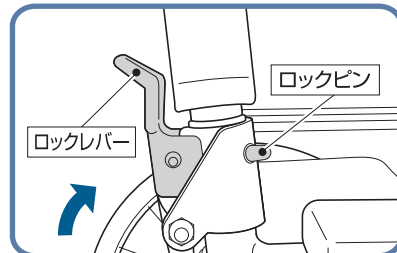
① グリップを持ち、矢印方向に、持ち上げる。



② バックサポートを両側起こす。



レバーを矢印方向に起こす。



警告

●バックサポート折りたたみのロックピンが、「カチッ」と音がして完全に出ていることを確認してください。(転倒事故の原因となります。)

していただく

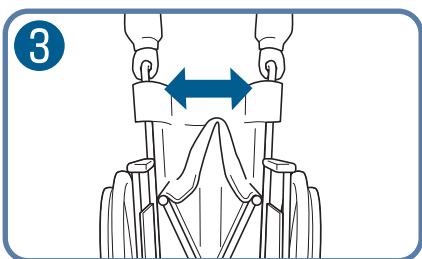


注意

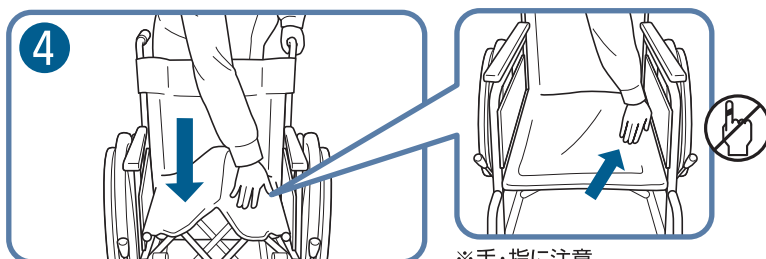
●バックサポートに重いものを引っ掛けないでください。
(車いすが不安定になり、転倒事故の原因となります。)

してはいけない

③ 車いすの後方に立ち、左右のグリップを持って両側に拡げます。



④ 片側のグリップを手で持ち、シートを手で下に押し下げると、シートが拡がります。



注意

●車いすを拡げる時に、座パイプの横や下に、手や指を入れしないでください。
(パイプに手や指を挟んでケガをします。)

してはいけない

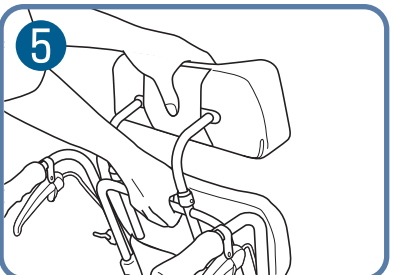


注意

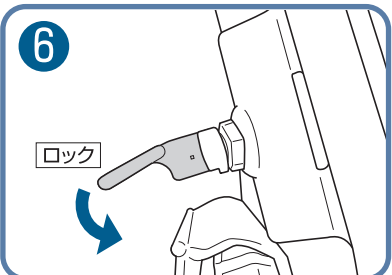
●車いすを拡げた時、座パイプが受けに収まっているか、確認して座ってください。
(パイプが曲がったりして、転落事故及び故障の原因になります。)

していただく

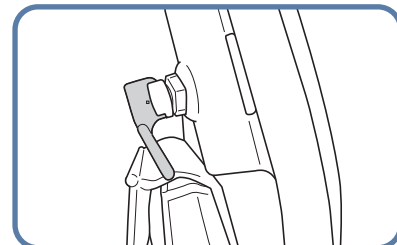
⑤ ヘッドサポートを取り付ける。



⑥ ロックレバーのロックを確認する。



(ロックした状態)



⚠ 注意

- 必ずヘッドサポートを取り付けてご使用ください。
(パイプ差込口で手や頭にケガをする原因となります。又、フレーム強度が低下し、破損の原因となります。)

していただく

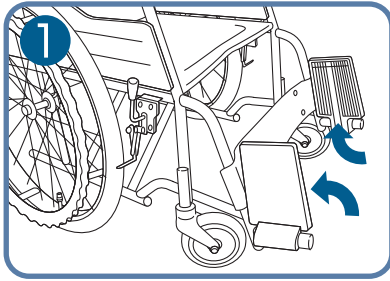
⚠ 注意

- ヘッドサポートがロックされていることを確認してください。
(外れて、転倒、転落事故原因となります。)

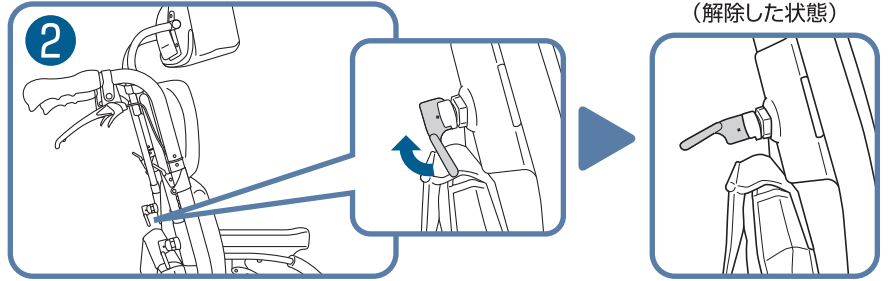
していただく

車いすの折りたたみ方

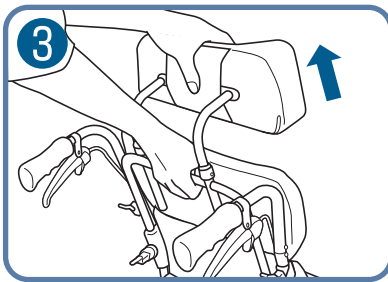
- ① フットサポートを矢印方向に回転させて上げる。



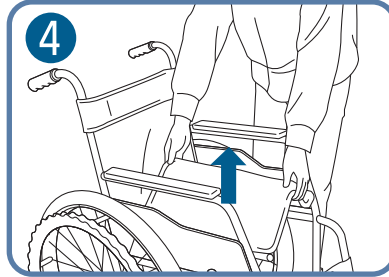
- ② ヘッドサポートのロックレバーを解除する。



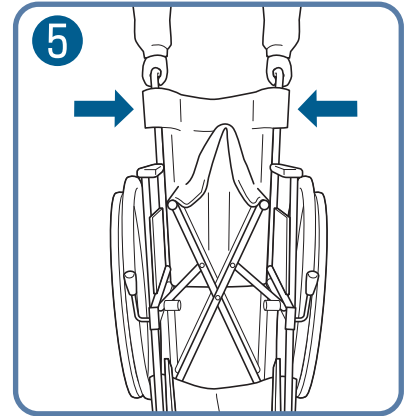
- ③ ヘッドサポートを外す。



- ④ シートの前方と後方の中央を同時に持ち上げる。

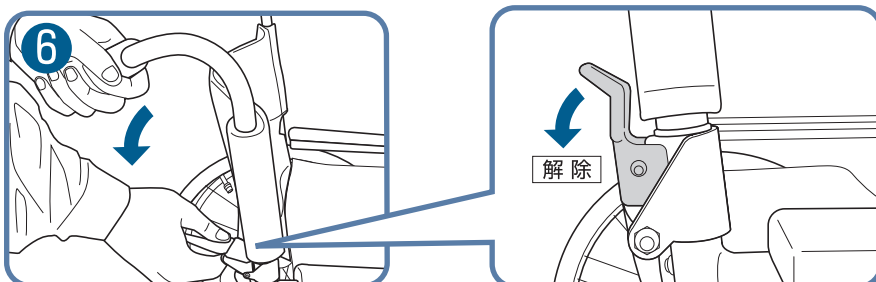


- ⑤ 左右のグリップを持ち内側にたたむ。

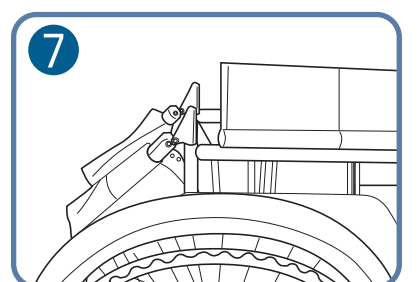


- 次の手順を行うとさらに小さく折りたたむことができます。

- ⑥ グリップを片手で持ち、レバーを後方に倒し、バックサポートを倒す。



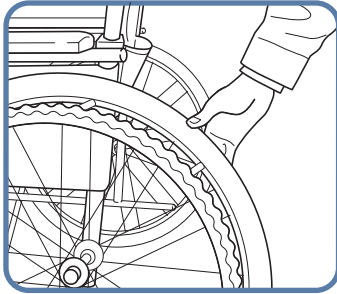
- ⑦ バックサポートを両側後方に倒す。



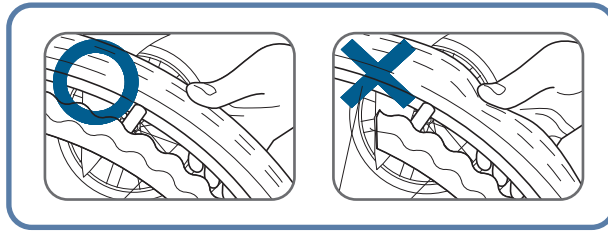
ご使用前に

■ご使用前に安全にご使用していただくため、次の確認をお願いします。

- ・タイヤの摩耗・亀裂はないか。
- ・タイヤの空気圧は、適正か。
- ・ブレーキに異常はないか。
- ・ブレーキをロックした時、駆動輪・主輪が回転しないか。



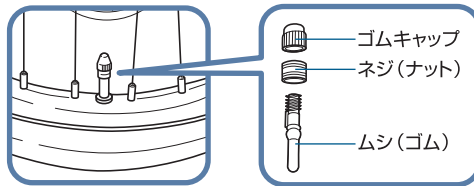
タイヤを親指で押し、容易にへこむ場合は、エアーを自転車用空気入れで補充してください。



※適正空気圧
350kPa

タイヤの空気バルブのネジが緩んでいないか確認してください。

タイヤの空気がすぐに抜けるときは、ムシ(ゴム)を交換してください。(自転車と共通です。)



警告

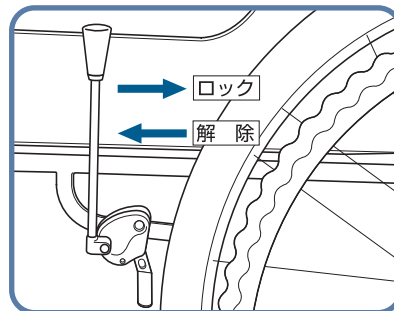
- タイヤの空気圧が少ない状態で、使用しないでください。
(ブレーキのロックが出来なくなり、車いすが動いたりして、事故の原因となります。また、タイヤのパンクの原因となります。)

してはいけない

ブレーキの使用方法

- ブレーキレバーを後方に引くとロックします。
- ロックした方向と反対に引くと解除します。

ミニタックル



警告

- タイヤの空気圧が少ない状態で、使用しないでください。
(ブレーキのロックが出来なくなり、車いすが動いたりして、事故の原因となります。)

してはいけない

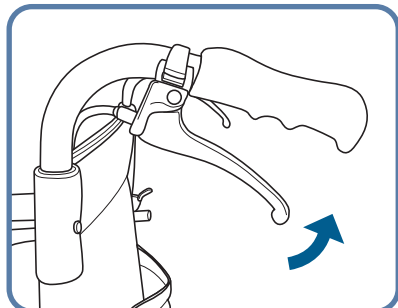
警告

- 車いすに乗る・降りる前や、ベッドへの移乗時には、必ずブレーキをロックしてください。
(車いすが動き、転倒事故の原因となります。)

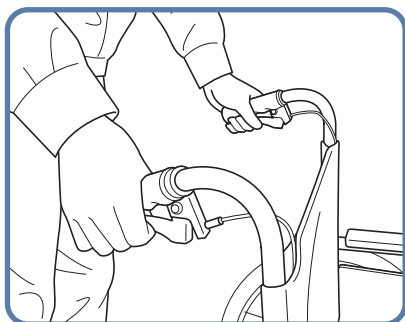
していただく

ドラムブレーキ(キャリパーブレーキ)

- レバーを握るとブレーキがかかります。
- レバーを離すと解除します。



介助者の方が走行中や下り坂での速度減速及び停止に、ご使用ください。



⚠ 注意

- 急ブレーキをかけないでください。
(車いすに乗っている方が前方へ転倒する恐れがあります。)

してはいけない

⚠ 注意

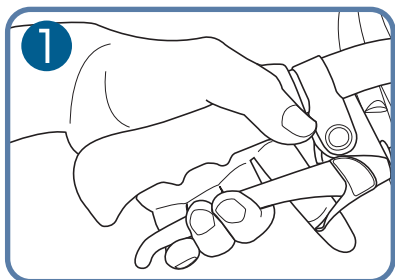
- 介助者の方は、キャリパーブレーキレバーを、両側同時にかけてください。
(バランスを崩し、転倒事故の原因となります。)

していただく

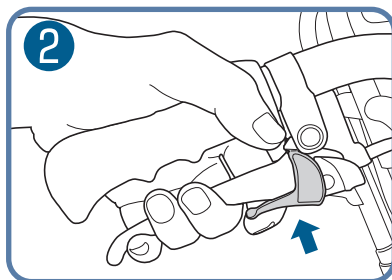
ピタロック

- レバーを握り主輪をロックすることができます。

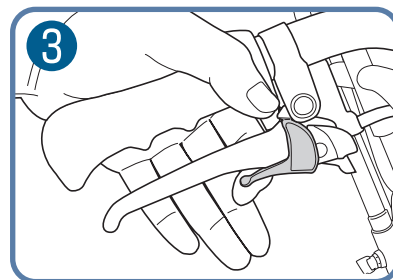
①レバーを握ります。



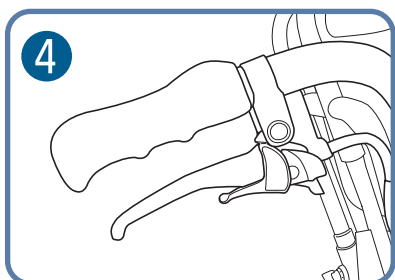
②ロックプレートを押します。



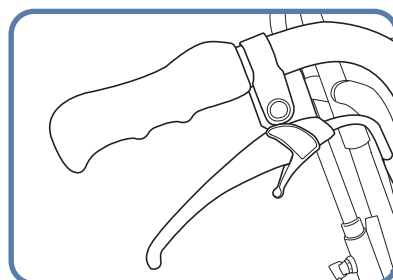
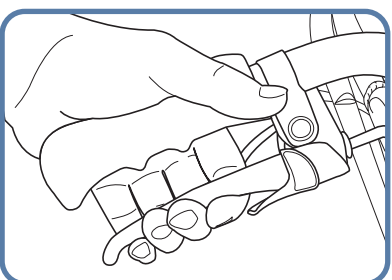
③ロックプレートを押したままレバーを離します。



④ロックプレートから手を離すとレバーが固定されています。



- 解除する場合にはレバーを強く握ってください。
自動的にロックプレートが解除されます。



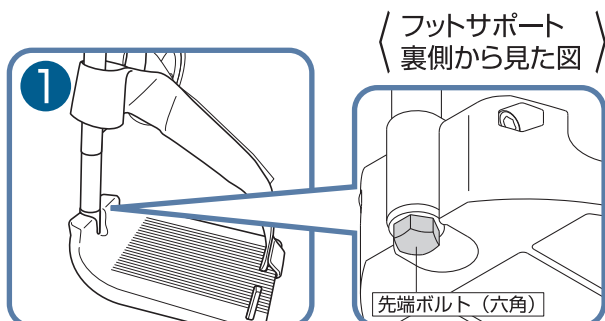
⚠ 注意

- 必ず主輪が動かないことを確認してから手を離してください。
(車いすが動き、事故の原因となります。)

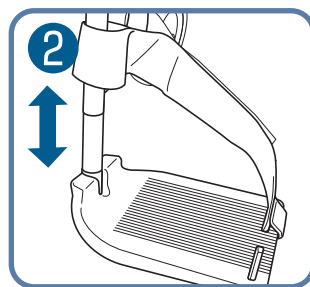
していただく

フットサポートの高さ調整

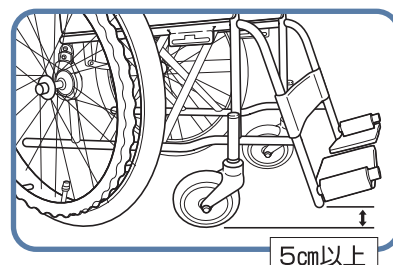
- ① フットサポートを少し上げ、付属品のスパナで先端ボルトを少し動くところまで緩める。



- ② 高さを調整し、先端ボルトを締める。



※適正トルク
12.5Nm



⚠ 注意

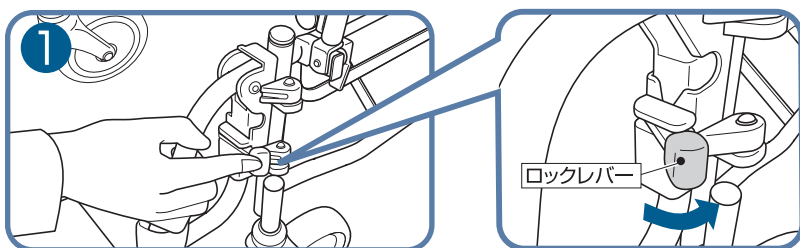
- フットサポートの高さは地面より5cm以上でご使用ください。
(路面の凹凸や障害物にフットサポートが引っかかり急に車いすが止まり、転倒の事故の原因になります。)

していただく

フット・レッグサポート スイングアウト

- フット・レッグサポートをスイングアウト (外開き) したり、取り外すことによりトイレ・ベッド等への乗り移りがしやすくなります。介助の場合には、足元が広くなり、移乗動作が楽に行えます。また片足こぎ操作する時には、取り外すことにより足元が広がります。

- ① ロックレバーを押し、ロックを解除します。

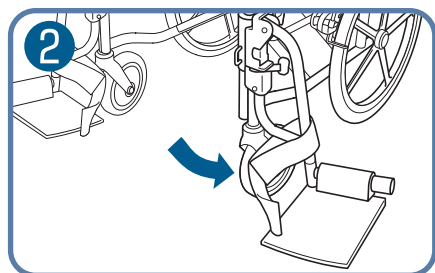


⚠ 注意

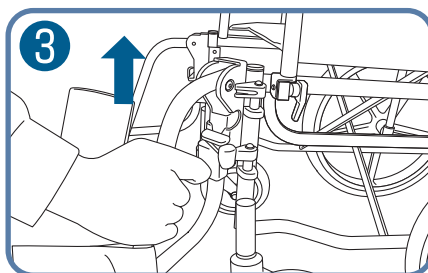
- スイングアウトをもどしたときは、ロックが確実にされているか確認してください。
(足を乗せたとき、外れて足をケガする原因となります。)

していただく

- ② レッグサポートを開くように外側に回転させます。



- ③ レッグサポートを取り外すときは、外側に回転した状態から上に持ち上げてください。



⚠ 注意

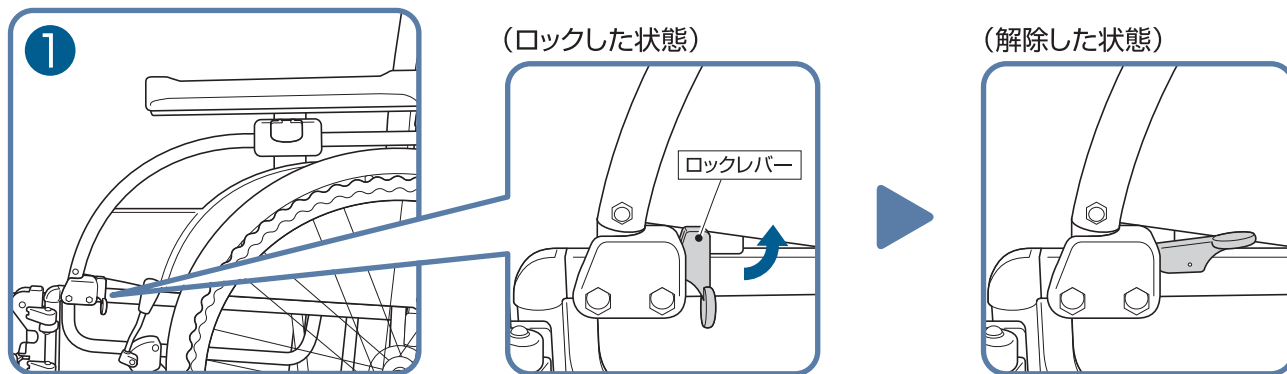
- スイングアウトや着脱・取り付け操作時に、手をはさまないように注意してください。

していただく

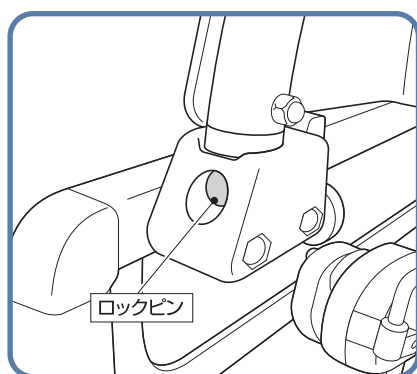
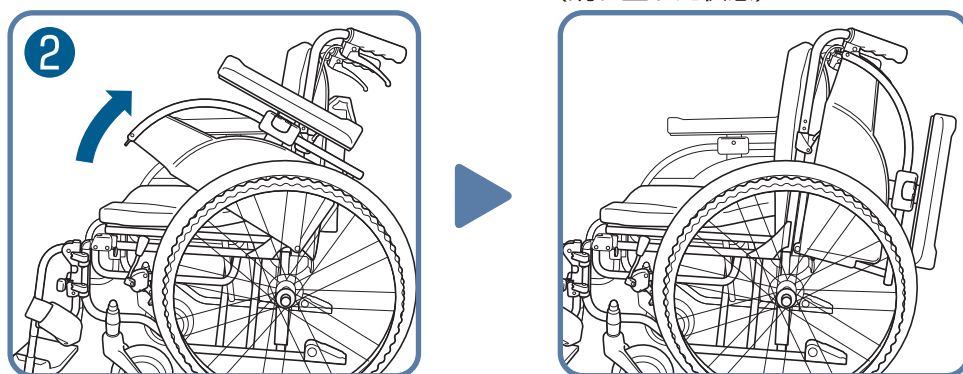
アームサポート 跳ね上げタイプ


- 両側のアームサポートが後方に跳ね上がりますので、横からの乗り移りがしやすくなります。介助の場合にも、アームサポートがじゃまにならず、楽に行えます。

① ロックレバーを矢印方向に起こす。




② アームサポートを後方に上げる。




 注意	<p>●アームサポート跳ね上げを、もどしたときは、ロックレバーのピンが完全にロックされていることを確認してください。 (転落事故の原因となります。)</p>
---	--

していただく

 注意	<p>●アームサポートを持って、車いすを持ち上げないでください。 (ケガ、転倒、転落事故原因となります。)</p>
---	---

してはいけない

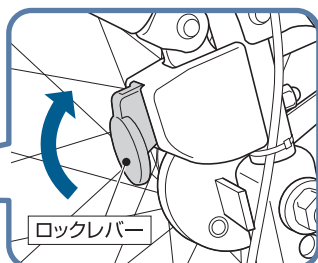
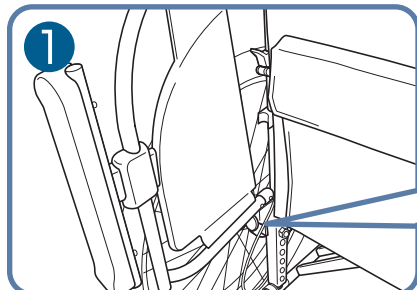
 注意	<p>●アームサポートを跳ね上げた状態で、アームサポートに力を加えないでください。 (破損の原因となります。)</p>
---	---

してはいけない

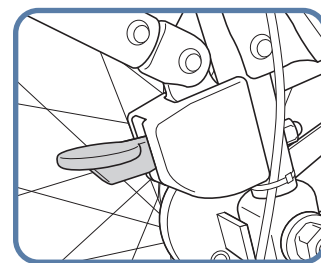
アームサポートの着脱

●アームサポートの跳ね上げに加えて、取り外すこともできます。前ページのように、アームサポートを後方に跳ね上げてください。

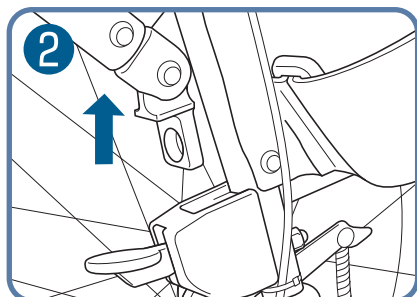
① ロックレバーを矢印方向に起こす。



(起こした状態)

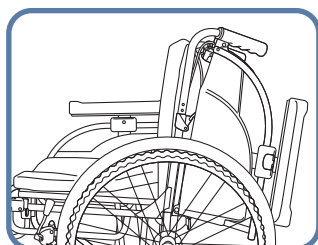


② 上に持ち上げて外す。

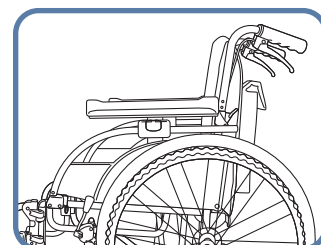


●取りつける場合

① 後方のロックを確認してください。



② アームサポートをおろし、ロックを確認してください。



⚠ 注意

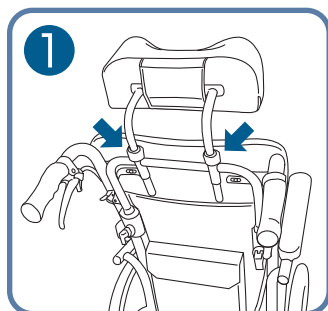
●アームサポートを取りつけたときは、完全にロックしていることを確認してください。
(転落事故の原因となります。)

していただく

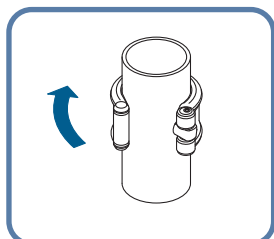
枕の調整

●使用者の体格に合わせて、枕の高さを変更することができます。

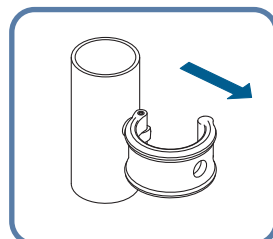
① 回転式スナップピンを取り外します。(2ヶ所)



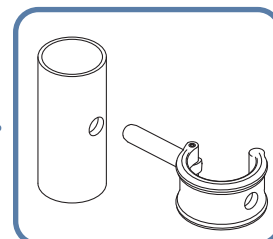
〈回転式スナップピンの取り外し方〉



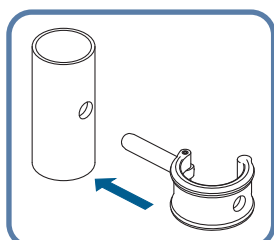
指を引っかけて矢印方向に回転させます。



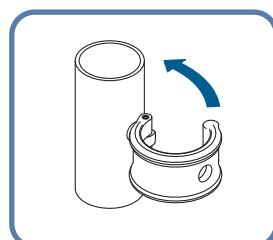
引き抜きます。



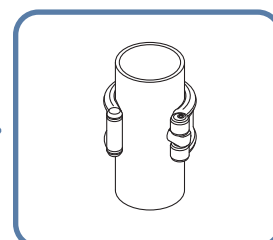
〈回転式スナップピンの取り付け方〉



穴にピンを差し込みます。



矢印方向に回転させます。



反対側の穴にピンの頭が出ていることを確認します。

② 高さを調整し、穴位置を合わせ、回転式スナップピンを取り付けます。

乗り方・降り方



警告

- 車いすに乗る・降りる前や、ベッドへの移乗時には、必ずブレーキをロックしてください。
(車いすが動き、転倒事故の原因となります。)

していただく



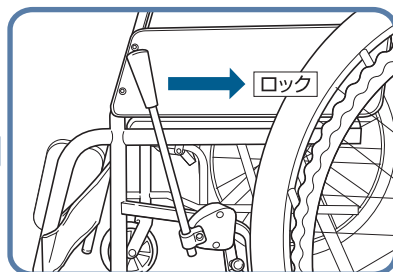
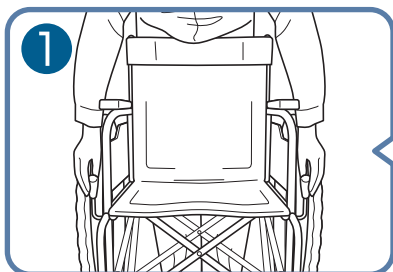
注意

- 車いすの乗り降りのは、路面の平坦な場所で行ってください。
(車いすが動いたりして、バランスを崩し、転倒・転落事故の原因となります。)

していただく

乗る時

- 1 ブレーキを両側ロックする。

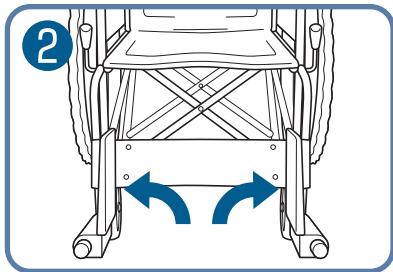


降りる時

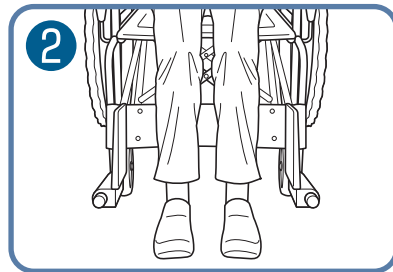
- 1 ブレーキを両側ロックする。



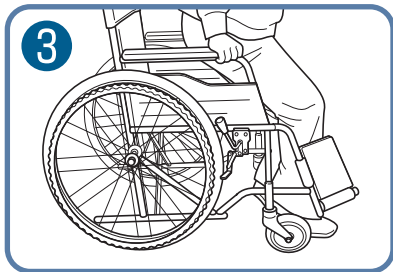
- 2 フットサポートを両側上げる。



- 2 フットサポートを上げ、足を下ろす。



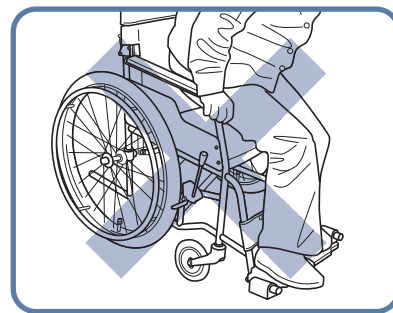
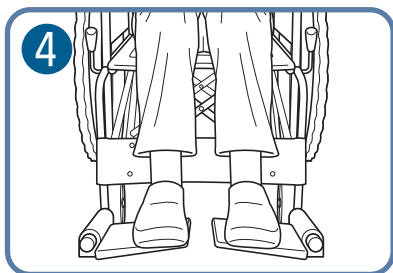
- 3 アームサポートを持ち ゆっくり座り込む。



- 3 アームサポートを持ち ゆっくり立ち上がる。



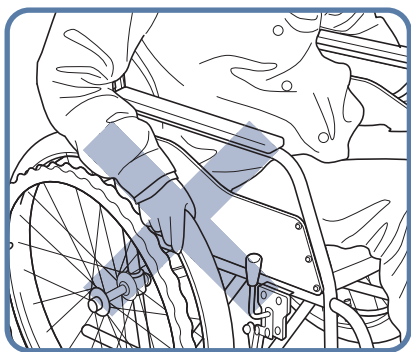
- 4 フットサポートに足を乗せる。



警告

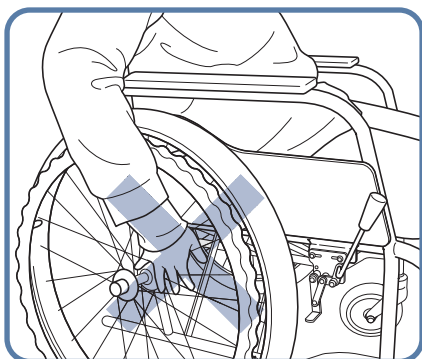
- フットサポートの上に乗って、乗り込んだり、降りるとき上に立ち上がらないでください。
(車いすがバランスを崩し、転倒事故の原因となります。)

してはいけない



⚠ 注意 ●タイヤを持って車いすを操作しないでください。
(ブレーキに手があたり、ケガをする原因となります。)

してはいけない



⚠ 注意 ●走行中、身体を乗り出さないでください。
(バランスが不安定になり、転倒、転落事故の原因となります。)

してはいけない

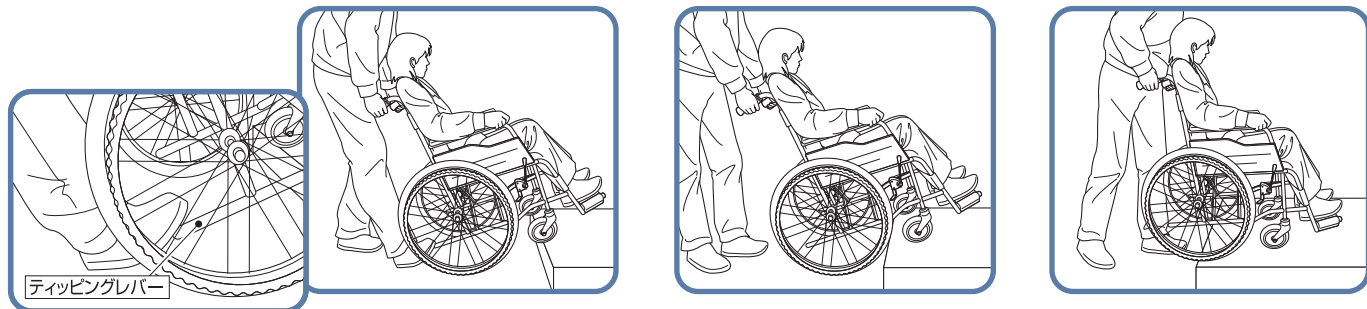
⚠ 注意 ●車輪が回転しているときは、スポークに手や指を差し込まないでください。
(手や指をはさんで、ケガをする原因となります。)

してはいけない

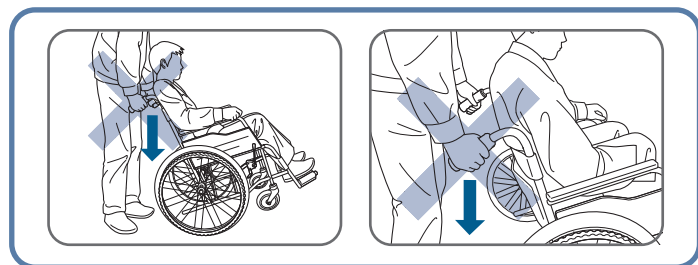
※このような場合にはスポークカバー(オプション)の使用をおすすめします。

介助の仕方

段差を乗り越える場合は、介助者のかたは、ティッピングレバーを踏んでキャスト(前輪)を上げ、段差に乗せてから、後輪を浮かし乗り越えてください。



ティッピングレバー

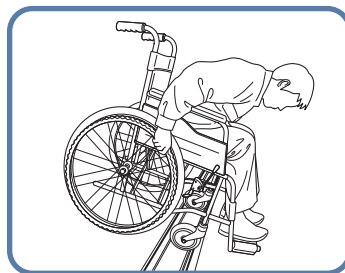
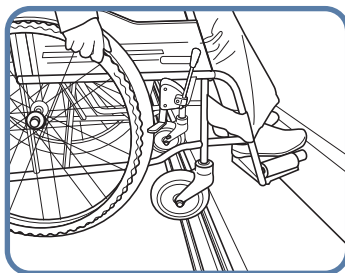
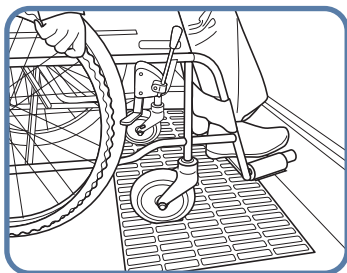


⚠ 注意 ●バックサポートパイプのみで、キャスト(前輪)を上げないでください。
(バックレストパイプが曲がったり、折れたりして、転倒して事故の原因となります。)

してはいけない

⚠ 注意 ●スピードをつけて、乗り越えようとししないでください。
(使用者が車いすから、転落して事故の原因となります。)

してはいけない



警告

- 側溝の格子蓋や踏み切りなどでご使用される場合は、必ず介助者の方に支えていただいで行ってください。
(車輪が溝にはまって転倒事故の原因となります。)

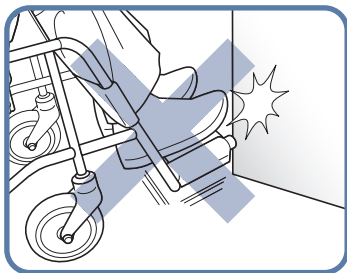
していただく

注意

- 側溝の格子蓋、踏み切りのレール溝にキャストが落ち込まないように注意してください。
(車いすが急に止まり使用者の体が前方に傾き、転落転倒事故の原因となります。)

していただく

【介助者の方へ】



注意

- 移動中つま先が障害物に当たらないように、確認して走行してください。

していただく

注意

- フットプレートに、足が乗っているか確認して走行してください。

していただく

■階段などで、使用者が乗ったままの状態、介助者に吊り上げてもらう場合



ベースパイプ・バックサポートの固定されている箇所を持って、4~5人で支えてもらってください。

注意

- 必ず固定されている場所を持ってください。
操作レバー、ブレーキなど持たないでください。

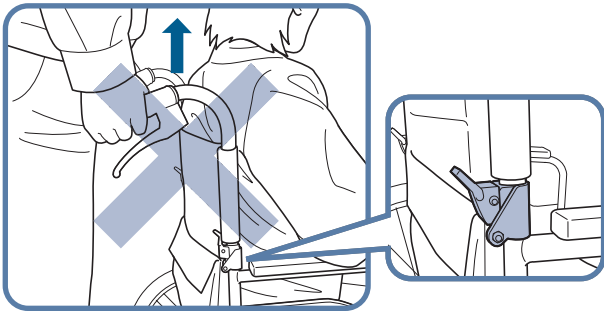
していただく

注意

- 車いすを持ち上げたときに座面の水平を保ち乗っている人の転落には十分注意してください。

していただく

重量がある場合には、人と車いすを別々に移動してください。



注意

●バックサポートが折りたたみ式の場合は、使用者が車いすに乗っている状態でグリップを持って吊り上げないでください。
(パイプが外れたりして、転倒・転落事故の原因となります。)

してはいけない

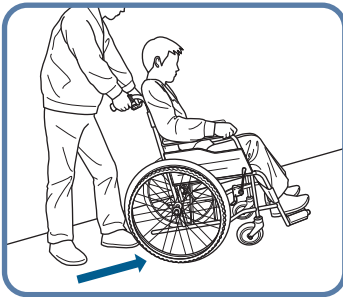
車いすを持ち上げようとして次のような箇所は、持たないでください。

- ・ヘッドサポート部
- ・バックサポートが折りたたみ式のバックサポートパイプ部
- ・アームサポートが跳ね上げ式のアームサポート部
- ・フット・レッグサポートがスイングアウト式のフット・レッグサポート部

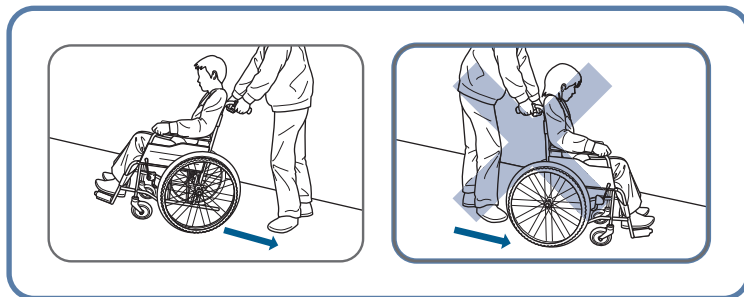
外出時の注意

坂道の登り下りでご使用される場合は、車いすの向きに注意してください。

登り坂



下り坂

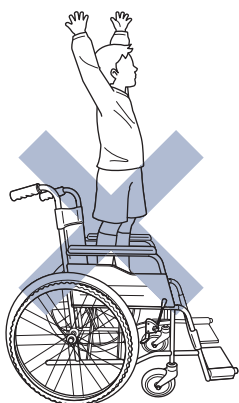


注意

- 坂道を下るとき介助者の方は、車いすを後ろ向きでゆっくり確認しながら走行してください。
(前向きで下ると、乗っている人がすり落ちたり前のめりとなり、転倒事故の原因となります。)

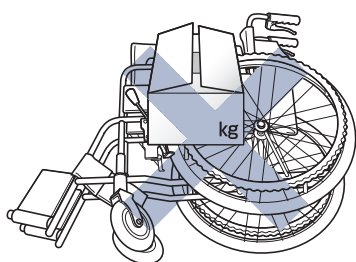
していただく

その他の注意事項



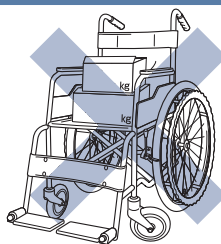
- 車いすのシートの上で立ち上がらないでください。
(転倒事故の原因となります。)

してはいけない



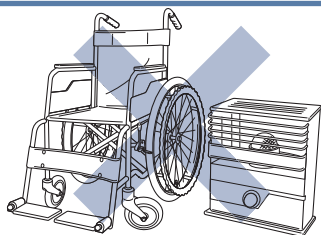
- 車いすを横向きに倒して上に物を置かないでください。
(重みで車輪フレームが、曲がったりして故障の原因になります。)

してはいけない



- 車いすで荷物を運んだりしないでください。

してはいけない



- 火気の近くに置かないでください。
(タイヤがパンクしたり、シートが燃え火災の原因となります。)

してはいけない

もしこんなトラブルが発生したときは

車いすをご使用されていて故障かなど、思うトラブルが発生したら、修理を依頼するまえに下記項目を確認してください。

トラブル	確認点	対処
タイヤの空気が少ない	・タイヤの空気圧は適正ですか	空気を入れてください
空気を入れてもすぐに抜ける	・タイヤの空気入れ部のネジは、しっかり締まっていますか	しっかり締め直してください
	・ムシゴムが劣化していませんか	ムシゴムを交換してください
走行操作が重い	・タイヤの空気圧は適正ですか	空気を入れてください
	・駆動輪・キャストに髪の毛、ビニールが巻きついていませんか	取り除いてください
真っ直ぐ走らない	・キャスト(前輪)が片べりしていませんか	取扱店にご連絡してください
バックサポート折りたたみのロックピンが入らない	・車いすを払って、バックサポートを折りたたみしていませんか	車いすを折りたたんで、行ってください
キャリパーブレーキが効かない	・ワイヤーがねじれていませんか	ワイヤーのねじれを調整してください
	・ワイヤーの遊びが多くありませんか	取扱店にご連絡してください
ブレーキが効かない	・タイヤの空気圧は適正ですか	空気を入れてください
	・タイヤは摩耗していませんか	取扱店にご連絡してください

車いすのお手入れの方法

- 清掃は水につけたタオルを強くしぼり、泥やホコリを拭き取った後に乾いた布で仕上げ拭きをしてください。
揮発性剤（シンナー・ベンジン・アルコール類）では、清掃しないでください。変色したり、劣化の原因となります。
ホースなどで直接水をかけないでください。車輪及びフレーム内部・ブレーキ部等に水滴が残り、錆の原因となります。
- タイヤの空気圧を適正に保ってください。(P.8)
空気圧が少ないときは、補充してください。
- タイヤには、ひび割れを防ぐ為に老化防止剤が配合されていますので、次のような環境及び薬剤はさけてください。タイヤの劣化を促進させ、ひび割れの発生原因となります。



- オゾン (O₃)
- 光線(日光)、熱・伸張等の機械的作用。
- 銅・マンガンのような金属の塩、石鹼などの容易に酸化される物質。
- シリコン系ワックス (自動車タイヤ用ツヤ出し剤、潤滑剤 (錆落とし含む))。

- 車いすに異常がある場合は、取扱店で点検・修理をおこなってください。
その状態で使用されますと、使用中に破損し、事故の原因となります。

- タイヤの劣化・ひび割れ・空気漏れ
- 各部固定部品の変形
- ボルト・ナット・ビスの緩み
- フレームのひび割れ・曲がり・ガタツキ
- 駆動輪・キャストの変形
- キャリパーブレーキ・ブレーキの効き具合

保管場所

次のようなところでは、保管しないでください。
故障の原因となります。

- 雨に濡れるようなところ
- 直射日光が当たるようなところ
- 湿気の多いところ
- 高温室になる場所
- 炎天下な場所

保証

● 保証期間は、お買上げ後1カ年です。(本体、付属品共)

ただし、次の場合は、保証期間中でも有償修理とさせていただきます。

1. 火災、天災による故障・損傷の場合
 2. 取扱説明書に記載の使用方法、ご注意に反するお取扱いによって発生した故障の場合
 3. 無断仕様変更及び、改造による故障の場合
 4. タイヤの磨耗、パンク、シートのやぶれ、ブレーキ、キャリパーブレーキ用ワイヤー、ブレーキゴム等の消耗品、及び各部の劣化による故障、損傷の場合
 5. 修理に要した運賃等の諸経費
- この保証書は日本国内のみ有効です。(P.21)

アフターサービス

万一故障の場合は、お買上げいただきました販売店、または松永製作所へ保証書ご持参の上、修理をお申しつけください。

車いす 点検シート

安全にご使用していただくために、ご自身・お買い求めの販売店(有料)で定期的に点検をしていただくようお願いいたします。

(長期間ご使用にならなかった場合は、ご使用前に点検をしてください)

点検の結果、異常があった場合はご使用にならず、調整・部品交換をしてからご使用ください。

点検項目		年月日				
		点検者				
キャスタ(前輪)	亀裂・キズの有無					
	キャスタの摩耗					
	スムーズな回転					
フォーク	損傷の有無					
	スムーズな旋回					
後輪	タイヤの空気圧					
	タイヤの摩耗					
	スムーズな回転					
フレーム	各部キズの有無					
	ボルト・ナットの緩み					
	スムーズな折畳み					
ブレーキ	ブレーキの利き					
ピタロック	主輪の固定					
シート	シートの破れ・損傷					
	シート固定ネジの緩み					
フットサポート	固定ボルトの緩み					
	プレートの破損					
アームサポート	固定ボルトの緩み					
	パッドの破損					
ヘッドサポート	シートの破れ・損傷					
その他						



株式会社 松永製作所

〒503-1272 岐阜県養老郡養老町大場484
TEL 0584-35-1180(代) FAX 0584-35-1270
URL <http://www.matsunaga-w.co.jp>